

シンポジウム「動き出すパリ協定、選ばれる企業」

DBJ 環境格付融資による企業との対話

2019年3月26日



サステナビリティ企画部
八矢

Section 1

DBJのご紹介

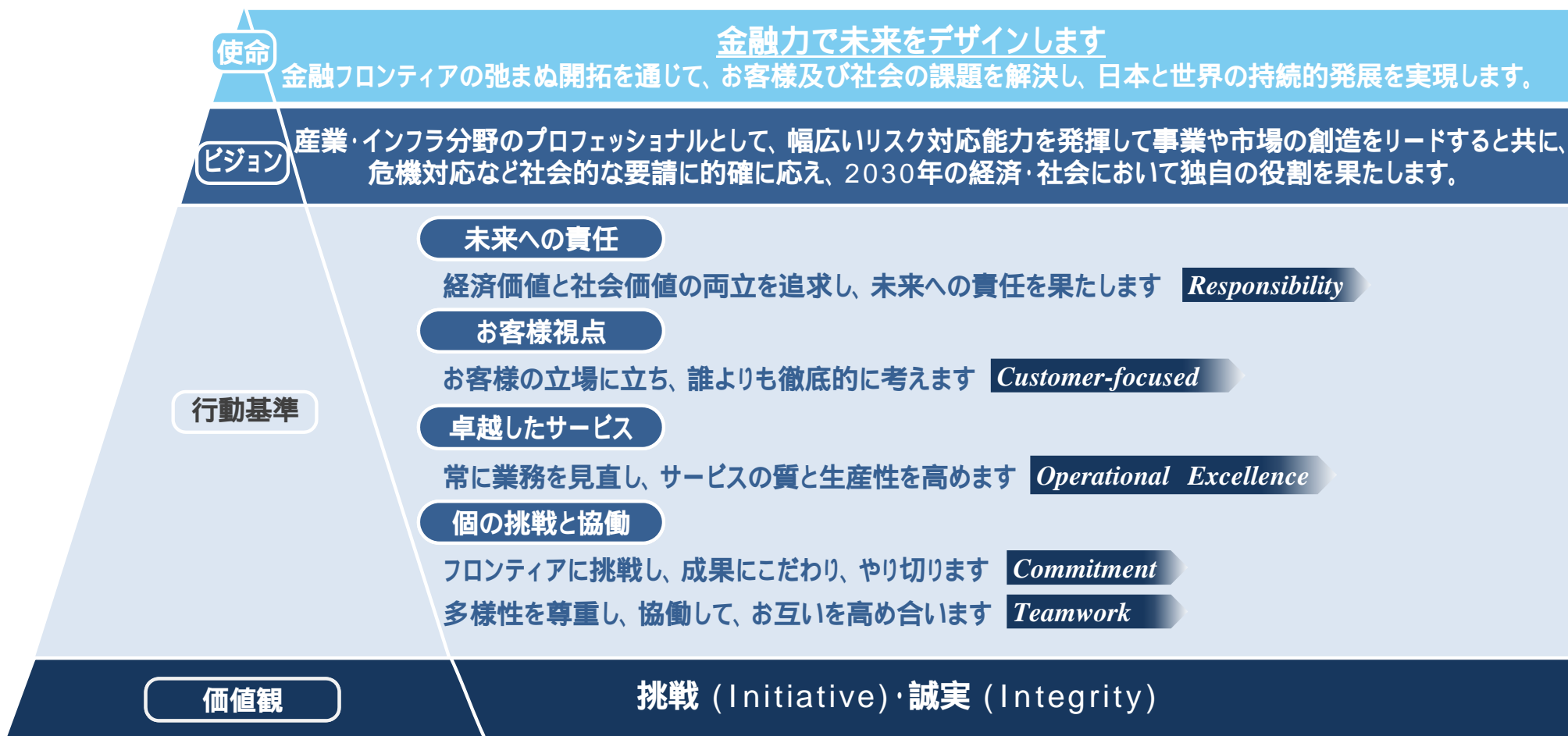
DBJプロフィール

設立	2008年(平成20年)10月1日(旧日本開発銀行 1951年(昭和26年)設立) (旧北海道東北開発公庫 1956年(昭和31年)設立) (旧日本政策投資銀行 1999年(平成11年)設立)
代表取締役社長	渡辺 一
職員数	1,182名(2018年3月末)
資本金	1兆4億24百万円(全額政府出資)
本店所在地	〒100-8178 東京都千代田区大手町一丁目9番6号
URL	https://www.dbj.jp/
支店・事務所等	支店10ヵ所、事務所8ヵ所、海外現地法人4ヵ所
総資産額	16兆7,406億円(2018年3月末)
貸出金残高	12兆8,742億円(2018年3月末)
総自己資本比率	15.45%(バーゼル ベース、国際統一基準)(2018年3月末)
発行体格付	A1 (Moody's)、A(S&P)、AA (R&I)、AAA (JCR)

DBJの企業理念

DBJグループ企業理念体系

- ・ 役職員が共有する**価値観**に根差した行動基準をガイドラインとしながら、当行グループの**使命(存在意義)**を追求し、**ビジョン(あるべき将来像)**の実現を目指す。
- ・ 企業理念に基づく**当行グループの強み**として、4つのDNA（**長期性、中立性、パブリックマインド、信頼性**）を位置付ける。



サービスのご案内

融資部門

中長期融資やプロジェクトファイナンスなどの
仕組み金融および劣後融資の提供

- 中長期融資
- シンジケート・ローン
- ABL (Asset Based Lending:資産担保融資)
- DIPファイナンス
- プロジェクトファイナンス/
ストラクチャードファイナンス
- 私募債等
- アセットファイナンス(不動産)
- メゾンファイナンス

投資部門

メゾンファイナンスやエクイティなどの
リスクマネーの供給

- エクイティ
- LBO/MBO
- メゾンファイナンス

投融資一体型の
金融サービス

コンサルティング/アドバイザー部門

仕組み金融のアレンジャー、M&Aのアドバイザー、
産業調査機能や環境・技術評価等のノウハウの提供

- M&Aアドバイザーサービス
- 技術事業化支援センター
- 大手町イノベーション・ハブ (iHub)
- 女性起業サポートセンター

DBJ評価認証型融資 体系と意義

体系



意義

責任ある金融

- 社会や顧客の課題解決、価値向上
- 財務情報のみならず、非財務情報を積極的に取り込むことで、企業価値をより適切に評価する

ご融資利用のメリット

1. 金利メリット
(格付に応じて金利を優遇)
2. 内部管理への活用
(取り組みの第三者評価、見える化、相対化)
3. CSR面のPR効果
(ステークホルダーへのアピール)

企業価値の源泉



DBJ評価認証型融資 実績



■ ご取得企業様(一例)



2018.03末 実績	格付件数		格付融資 累計金額
	2017FY	累計	
環境格付	47件	621件	1兆3,025億円
BCM格付	37件	315件	3,956億円
健康格付	30件	137件	1,550億円
合計	114件	1,073件	1兆8,533億円

Section 2

DBJ 環境格付融資の概要

「DB」環境格付」導入の背景

UNEP FI 2003 Global Roundtable 東京会議

- 2003年10月20・21日(月・火) 開催
テーマ「金融が持続可能な社会と価値の実現に向けて果たす役割」
 - アジアで初めて開催されたUNEP FIの最重要会議
 - 国内外の主要な金融機関、国際機関、NGO・NPO等30カ国100機関から約490名が参加
- 東京会議閉会に際し、世界各国のUNEP FI署名機関の総意として、**コンファレンス・ステートメント【東京原則】**を公表。

コンファレンス・ステートメント【東京原則】内容

1. 環境に配慮した投融資対象の選定
2. 環境に資する金融商品の開発
3. 最適なガバナンス体制整備
4. ステークホルダーとの対話



UNEP... (United Nations Environment Programme 国連環境計画):

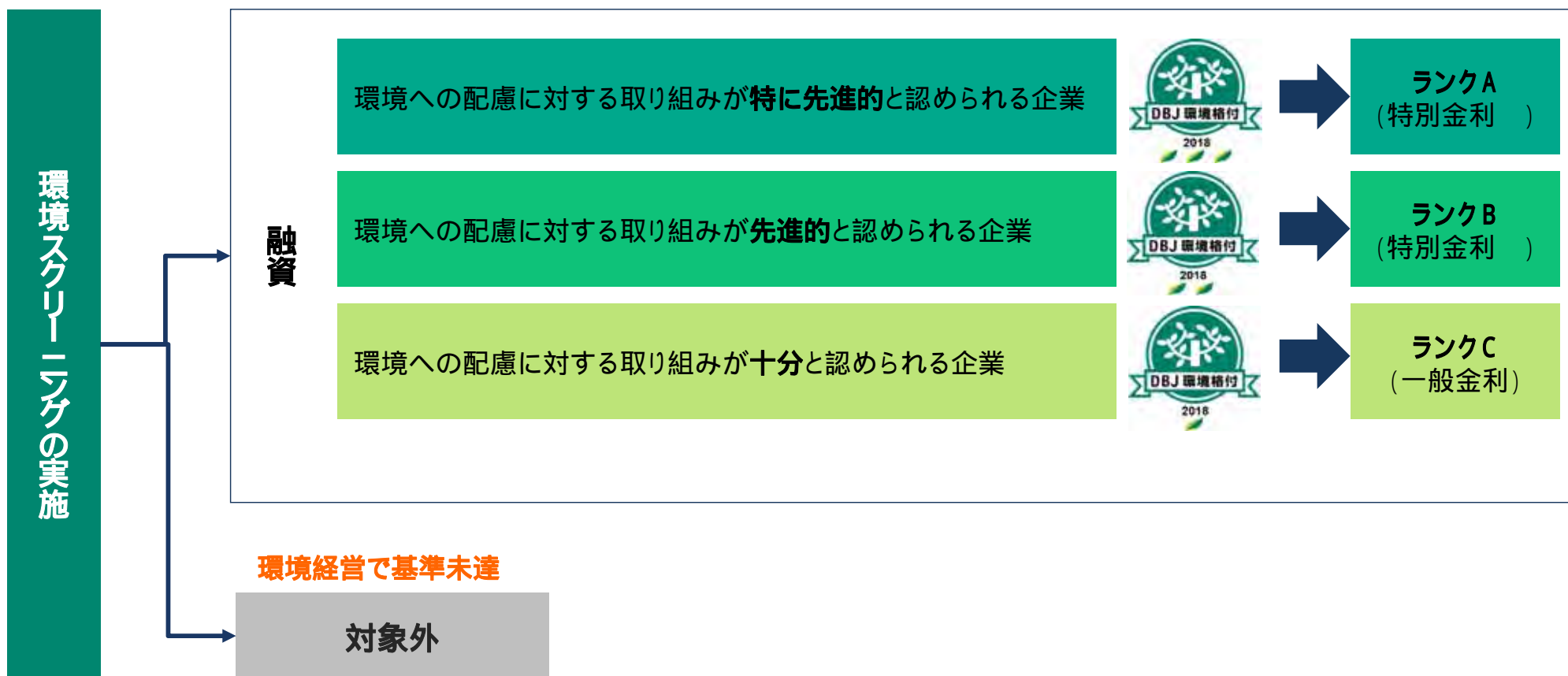
1972年に設立された環境にかかる啓発活動、情報提供などを行う国連の組織

UNEP FI... (Finance Initiatives 金融イニシアティブ):

UNEPと金融関係機関との自主的協定に基づき、1992年に発足した任意団体

DBJ環境格付融資 商品設計

- 環境スクリーニングにより企業の環境経営度を評点化し、これを融資条件に反映させる世界で初めての融資メニュー（2004年4月からスタート）
 - 「環境経営」と「サステナビリティ」の2分野 合計約150項目、100点満点
 - 通常の企業審査と並行して、環境スクリーニングを実施



環境経営では「経営全般事項」、「事業関連事項」、「パフォーマンス関連事項」をご評価させていただきます。

DBJ環境格付融資 スクリーニングの概要

■ スクリーニングシート概要(2018年度版)

分野	評価項目(中項目)
環境 経営 (70点)	経営全般事項
	A 環境マネジメント体制
	B 環境課題の特定
	C 情報開示とコミュニティへの参画
	D コンプライアンス
	事業関連事項
	E 環境に配慮した製品・サービス
	F 製品・サービス拡販に向けた取り組み
	G 製品・サービスを支える基盤
	H サプライチェーン
	I 総合評価
	パフォーマンス関連事項
	J 地球温暖化対策
	K 資源有効利用対策
L 水資源対策	
M 有害物質対策(化学物質、大気汚染物質)	
N その他	
サステナ ビリティ (30点)	W 中長期の社会課題と事業環境の変化を踏まえた重要課題
	X 達成に向けた戦略
	Y KPI
	Z ステークホルダーエンゲージメント

- 「環境経営」と「サステナビリティ」の2分野から評価
各分野の得点率合計100点満点による評価
- 環境経営(約120項目、70点)
 - 環境課題の解決と事業成長の同時実現に資する、アップサイドの取り組みを評価
 - 事業関連事項・パフォーマンス関連事項では事業モデルに応じた設問体系を用意
- サステナビリティ(約30項目、30点)
 - 長期的な事業環境の変化やSDGsなど広範な社会課題が事業に与える影響について、機会とリスクの観点からの認識
 - 長期ビジョン達成に向けた重要課題の特定と戦略を評価
- 外部有識者のアドバイスを得ながら、毎年改良作業を実施

DBJ環境格付融資 アドバイザー委員

- 「環境格付」の評価内容の維持・改善を図って行くことを目的とし、環境分野における専門家に環境アドバイザー委員に就任していただき、毎年、意見交換の場を設けています。

5名の社外委員

氏名	所属
岸本 幸子 氏	公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事・専務理事・事務局長
國則 守生 氏	法政大学 人間環境学部 教授
末吉 竹二郎 氏	国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI) 特別顧問
水口 剛 氏	高崎経済大学経済学部 教授 経済学部長
山口 智彦 氏	株式会社クレアン コンサルタント 一般社団法人CSRレビューフォーラム 共同代表

(50音順、2018年3月31日現在)

対話を重視した評価プロセス



評価プロセス	概要
事前質問票提出	事前質問票に、温室効果ガス排出量等のパフォーマンス数値(直近3期分)や独自に設定しているKPI等、事前参考情報をご記入いただくものです
一次スクリーニング	ご提出いただいた事前質問票や公表資料をもとに、DBJでスクリーニングシート(p11参照)を記入いたします。
環境ヒアリング	企業担当者様とサステナビリティ企画部メンバーで、公表情報等の事前情報のみでは判断出来ない事柄や、特色ある取り組み等、スクリーニングシートの内容をひとつひとつ丁寧に確認していきます。
判定会議	評価担当者を含む複数のサステナビリティ企画部メンバーで、スクリーニングシートの内容を議論・精査したうえで、評価結果を判定します。
評価決定 ご融資実行	ご融資実行のタイミングで格付取得となり、認定証と結果通知書(p14参照)をお渡しいたします。ロゴマークのデータも提供します。ロゴマークは、IR資料や決算説明会用資料、CSRレポートなどの各種資料のほか、名刺等への使用も可能です。
フィードバック	ご融資事項後、ご希望の企業には環境格付評価の詳細につきまして、フィードバックいたします。(p15参照)

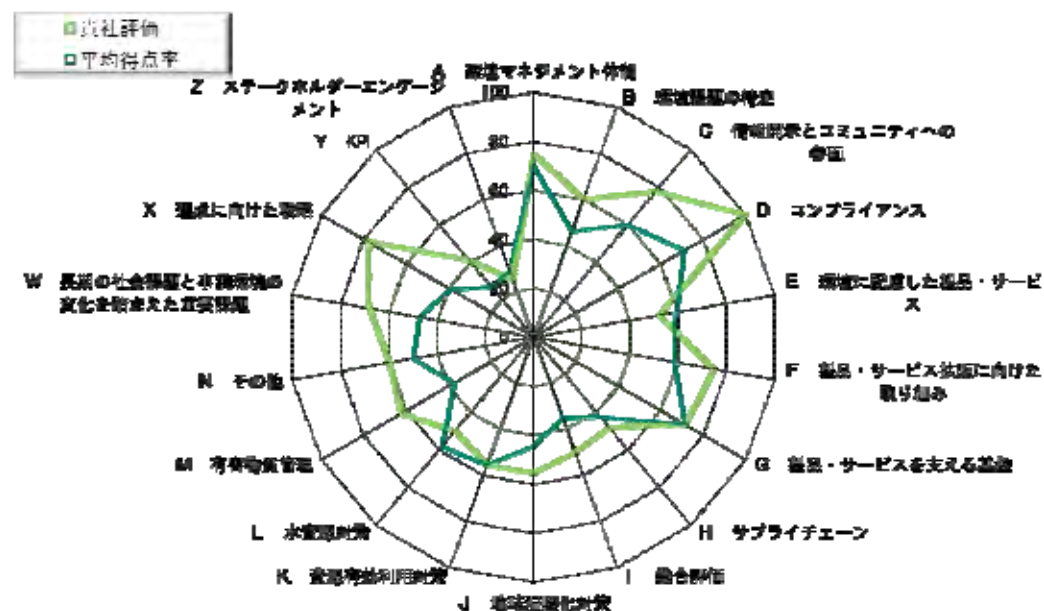
DBJ環境格付融資 評価後の対話

- 格付を取得されると、ご融資の実行後に「認定証」及び「結果通知書」をお渡しいたします。
- また、ご希望に応じて、評価結果の詳細について、無料で「フィードバック」を行っています。
- 格付を取得している他社の得点率と項目別に比較し、評価ポイントや今後期待したい事項などをお伝えします。
また、他社の優れたお取り組みや、環境やESGに関する最新の動向などについての説明を通じて、今後の取り組みの高度化をサポートいたします。

認定証及び結果通知書(例)



フィードバック資料(例)

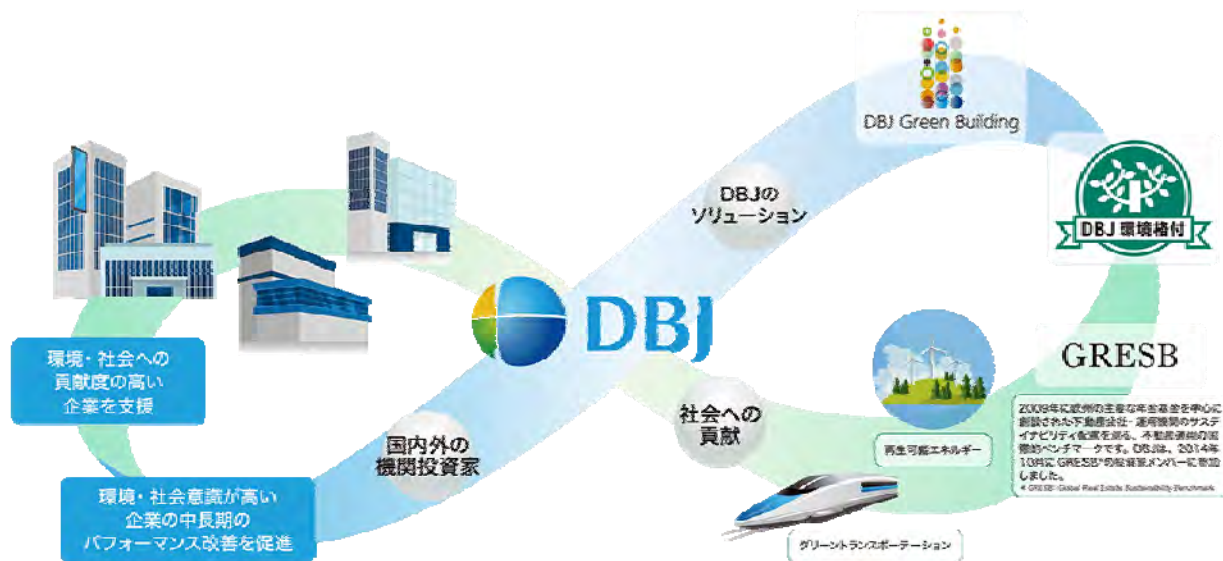


【ご参考】 DBJサステナビリティボンド(SRI債)

- サステナビリティボンドの発行によって得られた資金を、環境・社会への配慮がなされた事業などの原資として供給しています。
- 調達した資金の管理や使途の報告については、第三者機関からの評価を受け、透明性を高める工夫を行っています。

DBJサステナビリティボンド(SRI債)の仕組みと発行実績

第三者からの認証



名称	発行日	年限	発行額
DBJグリーンボンド	2014.10.7	3年	2.5億ユーロ(約340億円)
DBJサステナビリティボンド	2015.10.21	4年	3億ユーロ(約400億円)
第2回DBJサステナビリティボンド	2016.10.19	5年	5億ドル(約520億円)
第3回DBJサステナビリティボンド	2017.10.18	5年	10億ドル(約1,120億円)
第4回DBJサステナビリティボンド	2018.10.10	7年	7億ユーロ(約920億円)

ご利用企業様の声



毎年設問が見直されるため、外部環境の変化についても理解が深まりました。

日常の環境活動が評価認証型融資にもつながることを内部にPRすることで、従業員の環境活動へのモチベーションアップにつながりました。



事前に公開情報を整理して提供してもらえるので、負担が少なかったです。

自社担当以上に情報を精緻に見てもらい、ヒアリングでも多くの項目に関する的確に情報を聞き出してもらえました。他の監査の機会も多々ありますが、ここまで丁寧かつ効率的に確認頂ける機会是他にはありません。心より感謝申し上げます。



経営層に自社課題について説明する良い資料となりました。

環境部門は日常的には会社の中で目立たない部門であるため、環境格付で高評価を得ることで、工場等、現業も含めて社内で環境に関わる従業員にとっての励みになっていると思います。

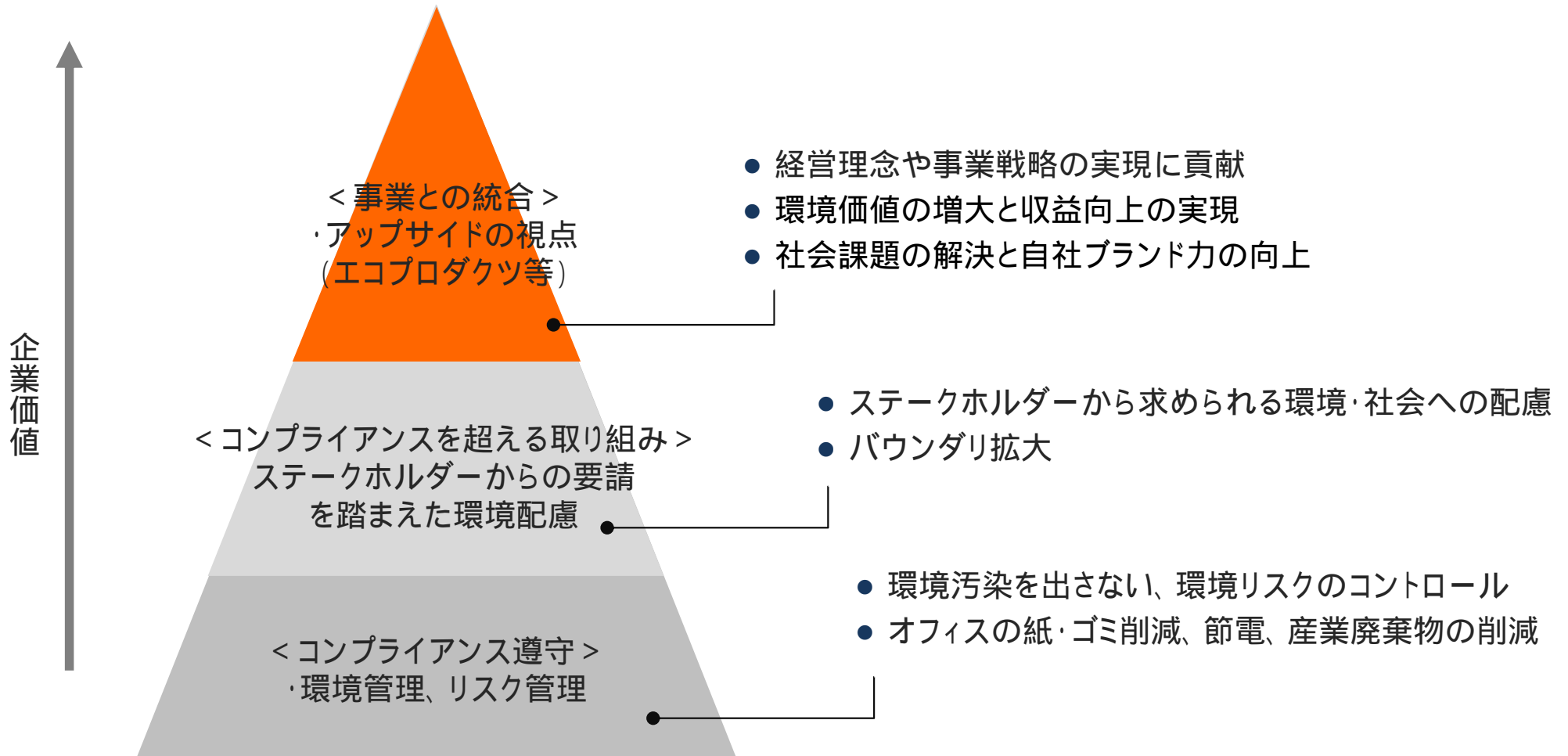


取り組みについて第三者の意見を得られたこと、ステークホルダーの視点が得られたことが特に有用でした。

Section 3

DBJ環境格付融資の視点

DBJ環境格付 評価の視点

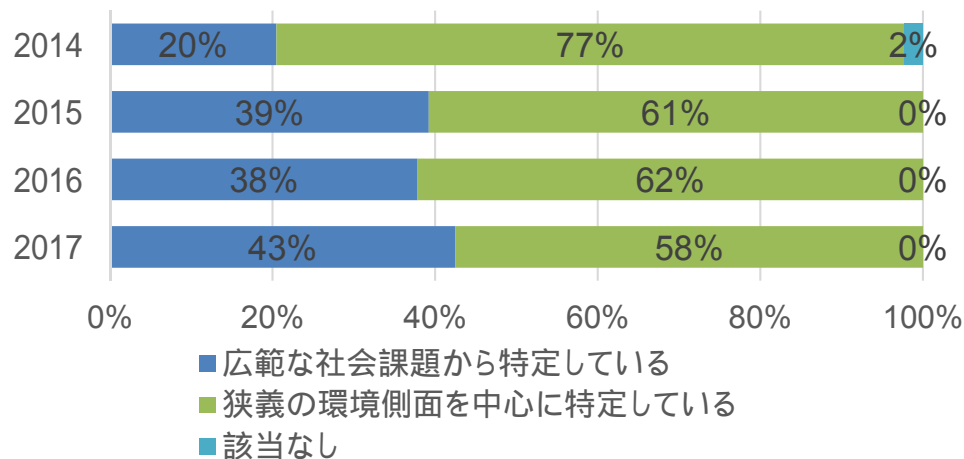


企業に期待すること

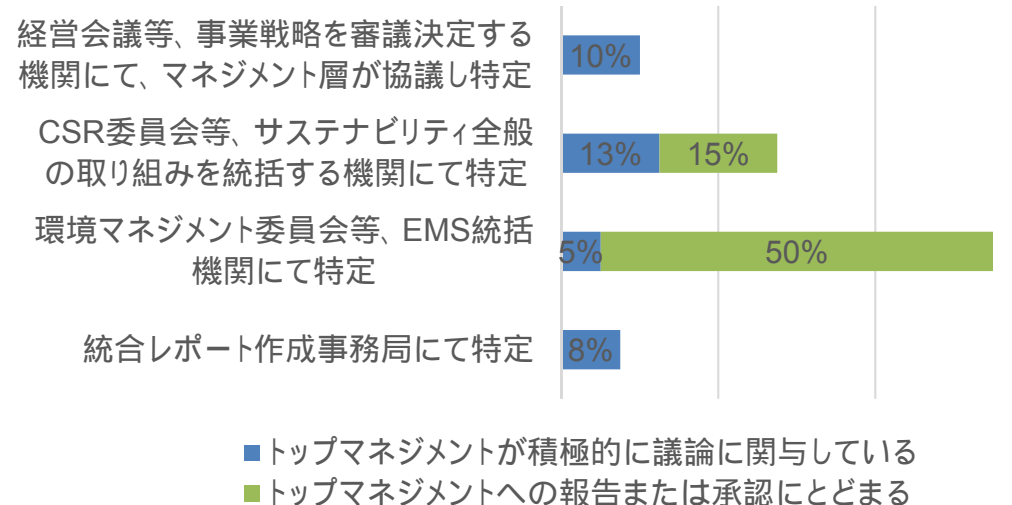
- **長期的かつ持続的に成長するうえで、考慮すべき環境・社会課題の特定**
 - 事業活動が大きなインパクトを与える環境・社会課題の特定
 - 「リスク」と「機会」を踏まえた分析
 - 競争優位性を支える経営資源の確保
- **事業戦略への組み込み**
 - 社会課題解決に向けた価値創造プロセスの考察
 - バックキャストによる戦略への組み込み
- **ブランディングを意識した取り組みの情報発信**

重要課題の特定 (DBJ環境格付取得企業の状況より)

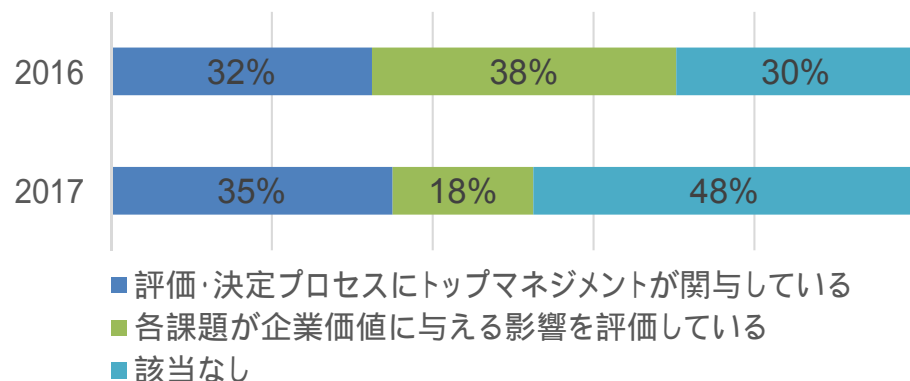
広範な社会課題の認識と重要課題(マテリアリティ)の特定



マテリアリティの特定主体とトップマネジメントの関与



重要課題(マテリアリティ)の特定プロセスにおける経営戦略や中長期的な企業価値への影響度評価

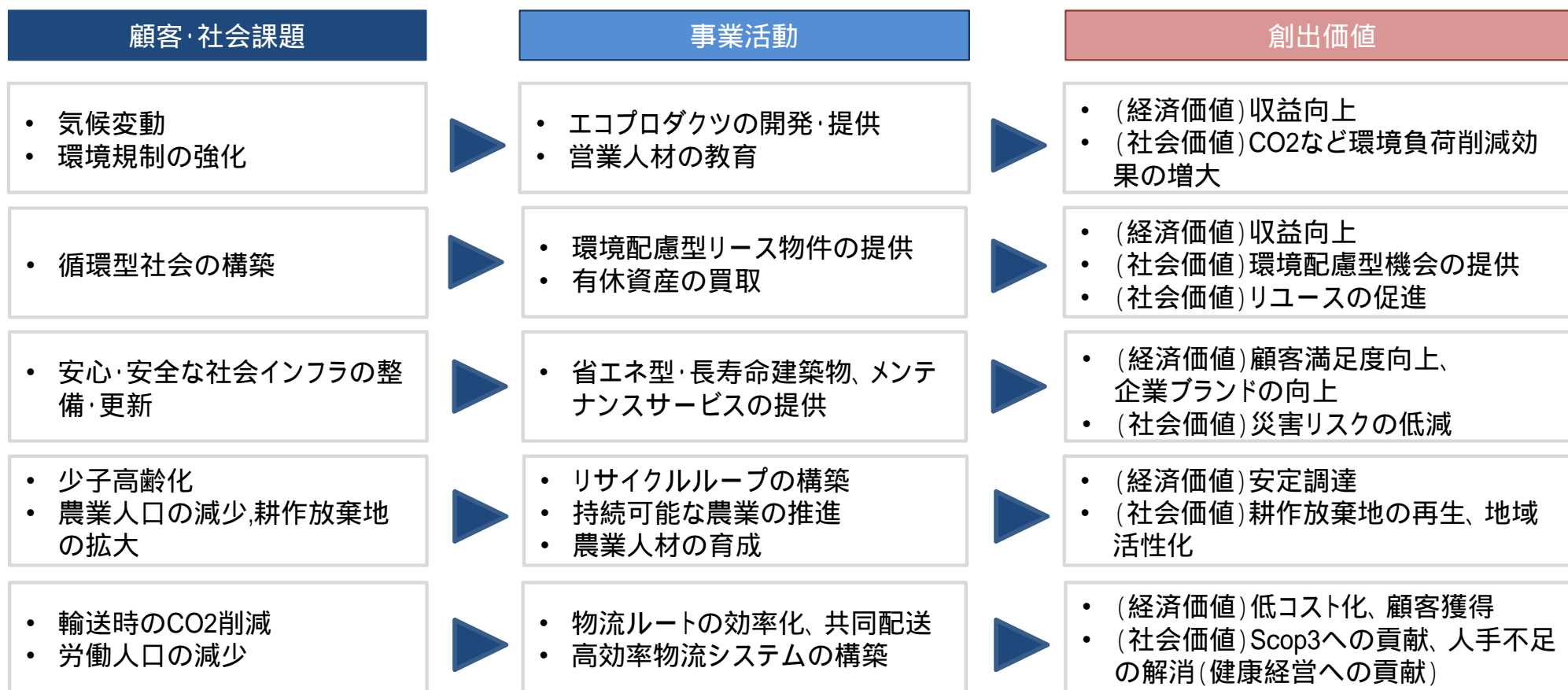


* 対象企業: 各年度の評価基準に基づき評価を行った企業
(2014年度44社、2015年度51社、2016年度37社、2017年度40社)

事業を通じた価値創造の考え方

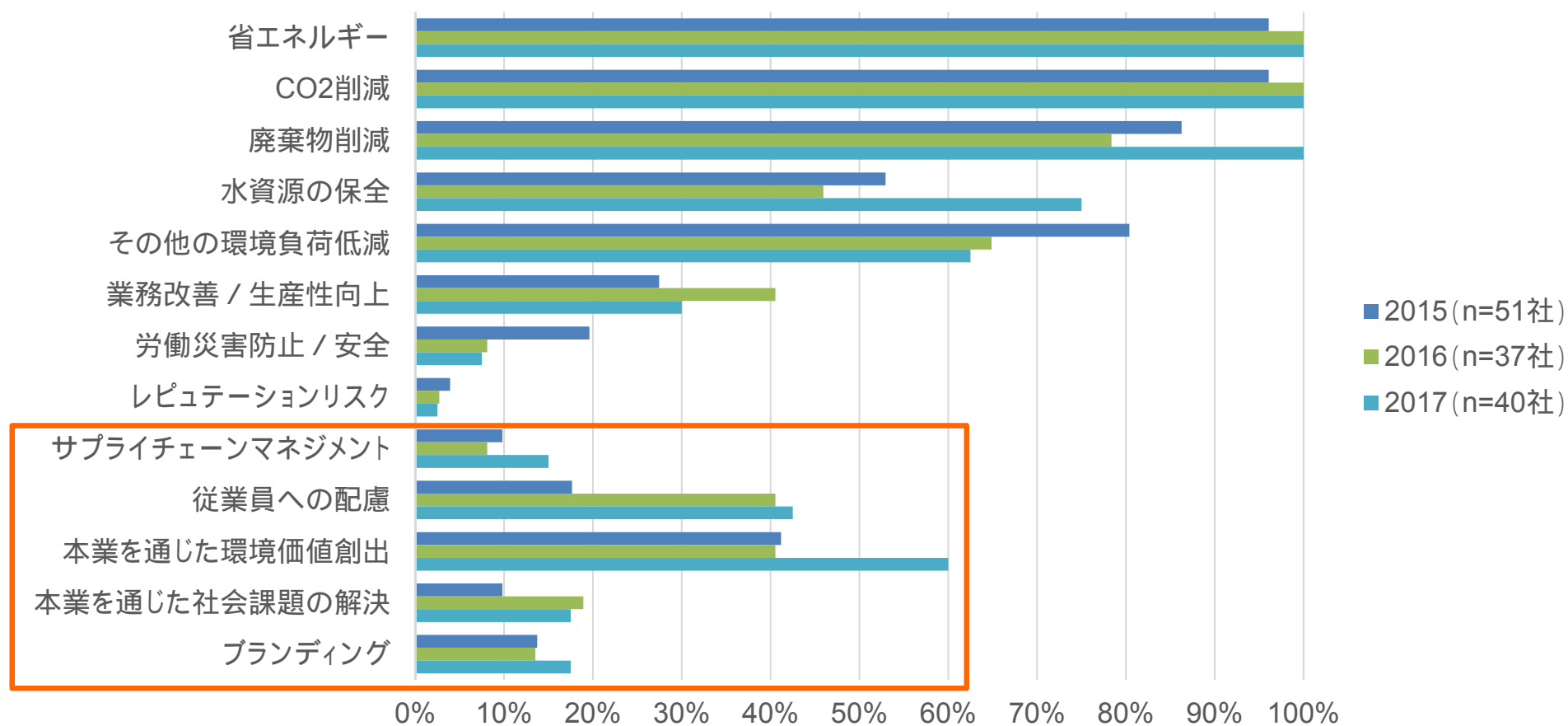
求められているのは、持続可能な発展に貢献する企業であることを示す価値創造ストーリー

- 環境価値の増大と収益向上の同時実現
- 顧客・社会の課題解決と自社ブランド力の向上
- 本業の推進を通じた企業・顧客・地域の課題解決



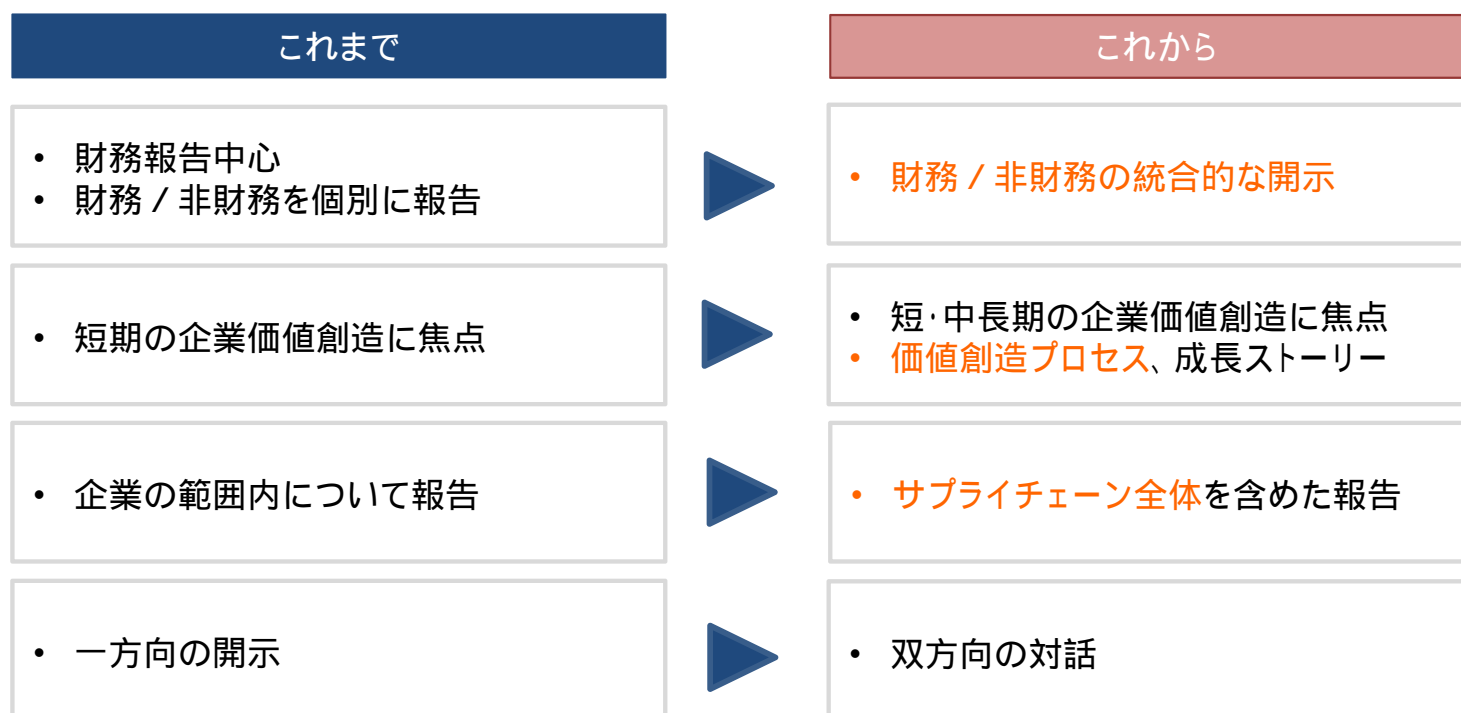
KPIの選定 (DBJ環境格付取得企業の状況より)

- DBJ環境格付では、環境マネジメント項目に加え、特定したマテリアリティにひもづくKPIを評価している
- 2017FYは、企業価値向上に繋がるKPIについて、格付取得企業と対話を実施
- 経営計画や企業価値向上の観点からマテリアリティ及びKPIを選定している企業は未だ低位に留まるものの、本業を通じた環境価値・社会価値の創出や従業員への配慮等について、KPIを選定し取り組みを進めている企業が昨年度より増加



ブランディングを意識した情報発信

- 持続的に価値を創造する企業であることを、財務 / 非財務両面から伝える
→社外で実現している価値の見える化(環境貢献量、生産性向上への寄与、安全な職場環境整備への注力等)
- ステークホルダーとの「双方向の対話」により、取り組みの方向性や水準、開示内容について確認し、高度化に繋げる



「DBJ 評価認証型融資」専用HP のご紹介(2018/4 ~)

DBJ 評価認証型融資業務(環境格付、BCM格付、健康経営格付)の専用HPを4月2日にオープン致しました。コンセプトの明確化を図るとともに、認証取得企業様の一覧、認証取得企業様の地域別実績件数、インタビュー記事等も新たに掲載しておりますので、ぜひご覧下さい。

今後の評価認証取得に関するプレスリリースにつきましては、DBJ本体HPと専用HPの双方に掲載し、PR効果の向上を図ります。

URL : <https://www.dbj-sustainability-rating.jp/>



ありがとうございました

ご質問、ご相談等がございましたら、何なりと下記連絡先にお問い合わせください。

連絡先

株式会社日本政策投資銀行 サステナビリティ企画部

 TEL: 03-3244-1170

**著作権(C) Development Bank of Japan Inc. 2019
当資料は、株式会社日本政策投資銀行(DBJ)により作成されたものです。**

当資料は、貴社及び当行間で検討 / 議論を行うことを目的に貴社限りの資料として作成されたものであり、特定の取引等を勧誘するものではなく、当行がその提案内容の実現性を保証するものではありません。

当資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢および当行が合理的と判断した一定の前提に基づき作成されておりますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。また、ここに記載されている内容は、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

当資料のご利用並びに取り組みの最終決定に際しましては、貴社ご自身のご判断でなされますよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などにご相談の上でお取り扱い下さいますようお願い致します。

当行の承諾なしに、本資料(添付資料を含む)の全部または一部を引用または複製することを禁じます。